

## オオタバコガの発生と見分け方

オオタバコガは、近縁種のタバコガと同じく以前から我が国に分布していたが、これまで被害などが話題にのぼることはまれであった。しかし、全国的に高温・少雨・乾燥であった1994年夏に西日本各地で平年になく多発生となり、1996年頃からは関東・東北の一部県でも発生が目立つようになった。

最近では本虫による被害作物も増える傾向にあ

り各地で難防除害虫としても問題となっている。その主な理由としては①寄主植物の範囲が広いこと、②産卵数が多く、増殖能力が高いこと、③薬剤抵抗性が強く、効果的な防除法が確立していないこと等があげられる。

以下、本種の見分け方、被害及び防除法等について近縁種であるタバコガと比較しながら紹介する。

### オオタバコガ

学名：*Helicoverpa armigera* (Hübner)  
英名：corn earworm, cotton bollworm

〔分布〕ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリアの亜熱帯地域から温帯アジア南部にまで広く分布している。

〔寄主植物〕ナス、トマト、トウガラシ、ピーマン、オクラ、キュウリ、イチゴ、トウモロコシ、キャベツ、レタス、ネギ、ニンジン、ワタ、キク、カーネーション、トルコギキョウ、ラッカセイ等。



雌：後翅の黒部分大きい 雄：雌より黄色味が強い



蛹：土中で蛹化する 幼虫：トマトを食害

静岡県病害虫防除所

形態 オオタバコガ成虫は体長15mm～20mm、開長35mm～40mm、タバコガは体長15mm内外、開長30mm内外である。体色はオオタバコガが緑灰色～黄褐色、タバコガは黄褐色である。前翅は両種とも雄は黄色味を帯び、雌は赤味を帯びるがオオタバコ

### タバコガ

学名：*Helicoverpa assulta* (Guenée)  
英名：oriental tobacco budworm, cape gooseberry budworm

〔分布〕アフリカ、アジア、オーストラリアの亜熱帯及びアジアの温帯地域に分布しているが、オオタバコガの分布域よりも狭い。

〔寄主植物〕タバコ、トマト、ホオズキ、トウガラシ等のナス科植物を好む。レタス、カボチャ等も食害するが寄主範囲はオオタバコガより狭い。



雌：前翅は赤味を帯びる 雄：前翅は黄色味を帯びる



卵：1粒ずつ産下される 幼虫：ホオズキ苞内に食入

池田二三高氏提供

ガはタバコガよりも赤味が強い。終齢幼虫は両種とも体長35mm～40mmで、体色は淡緑色、緑褐色、黄褐色など個体変異幅が大きい。成虫、幼虫ともに一見して区別することは困難である。

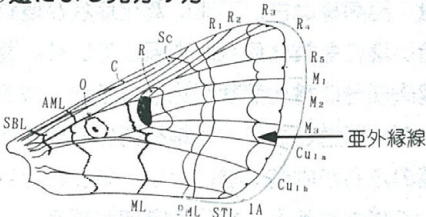
しかし、実体顕微鏡等を使用して①成虫の翅(オ



オオタバコガの前翅亜外縁線のギザギザ模様は、不明瞭に対してタバコガは明瞭である。②雄交尾

器形態、③老熟幼虫の刺毛基板を観察することで両種を区別することは可能である (次図参照)。

①翅による見分け方

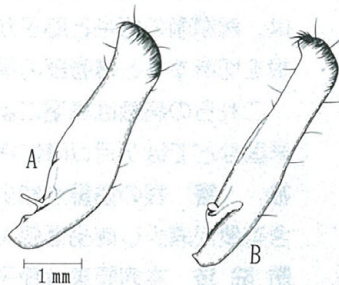


(KIRKPATRICK, 1961を1部改変)

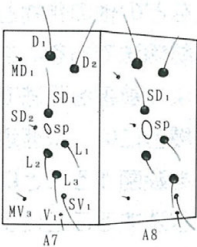
	前 翅		後 翅	
	色 調	亜外縁線	地 色	翅 脈 色
オオタバコガ	変異 大 灰黄色～ 黄褐色	M <sub>3</sub> 以下で鋸歯状 にならず不明瞭 となる	タバコガよ り白っぽい 黄色	黒褐色
タバコガ	変異 小 黄褐色	M <sub>3</sub> 以下で鋸歯状 となる	黄色	暗色にならない

②雄交尾器による見分け方

A: オオタバコガ  
B: タバコガ  
雄交尾器右ハ  
ルバ内面図



③幼虫刺毛基板による見分け方



←オオタバコガ第7、第8腹節の刺毛配列  
A7: 第7腹節, A8: 第8腹節, sp: 気門  
⇨ (HINTON方式による刺毛命名)

日本産オオタバコガ、タバコガ終齢幼虫  
第7、第8腹節の気門長に対する  
SD<sub>1</sub>刺毛基板の縦直径 (SD<sub>1</sub>刺毛基板直径 / 気門長)

	第7腹節	第8腹節	供試個体数
オオタバコガ	0.97~1.19	0.63~0.76	7
タバコガ	1.40~2.00	0.86~1.10	10

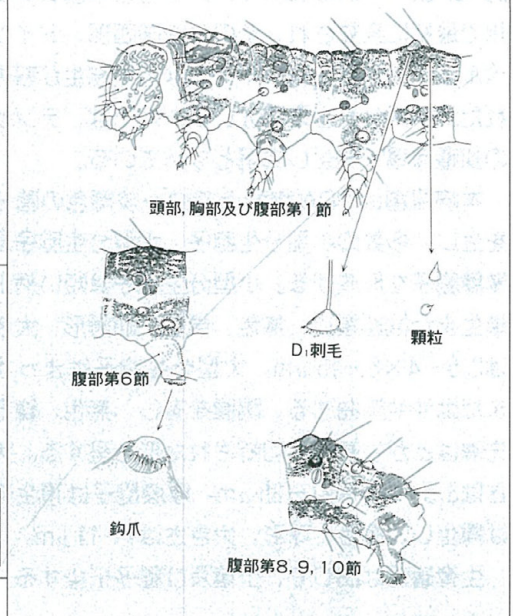
農林水産省 草地試験場 吉松慎一氏提供

生態 両種とも年に2~3回発生する。フェロモントラップによる調査では、タバコガは10月中旬まで、オオタバコガは11月まで確認できる。両種とも寄主植物の新葉や花蕾に1粒ずつ産卵する。1雌あたりの総産卵数は、オオタバコガでは1,000~2,000個と多く、タバコガでは500~600個である。

オオタバコガ成虫は陸地から離れた太平洋上や東シナ海上の定点で捕獲された記録があることから長距離移動性があると考えられている。そのため、発生は突発的に起こり、気付かないうちに大きな被害が報告されることもある。

被害 両種とも、幼虫が葉、芽、果実等を食害することにより生じる。野菜類ではトマト、イチゴ等の果実内部、キャベツ、レタス等の結球内部、

④オオタバコガ幼虫



トウモロコシの若い穂等を食害し、花き類では頂芽及び蕾内部を食害する。

防除法 両種とも若齢幼虫世代に早期発見し薬剤等による徹底防除を実施することが効果的である。また、ハウス栽培等では開口部を寒冷紗等により被覆し成虫の飛来を阻止することが有効である。

オオタバコガはタバコガより薬剤感受性が低いことが判っている。防除薬剤はタバコガではナスに対するベンゾエピン乳剤等があるが、オオタバコガにはレタスとナスに対してフェンバレレート・マラソン水和剤が有効薬剤として登録されている。

現在、国及び県の試験研究機関においてオオタバコガ防除法の実用化試験として、天敵寄生蜂、細菌等を利用した研究が進められている。